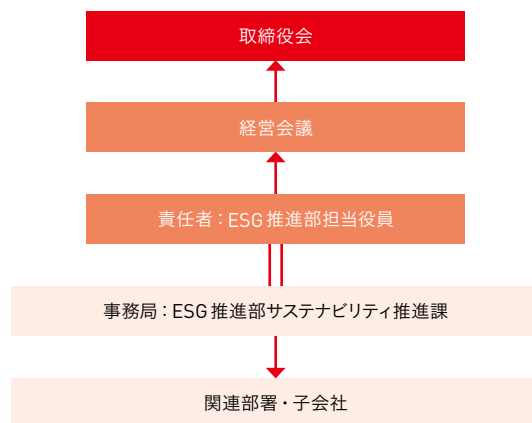


サステナビリティ活動の推進

推進体制

サステナビリティ活動の推進にあたっては、(株)ロッテESG推進部の担当役員が責任者、同部サステナビリティ推進課が事務局となり、関連部署や子会社と連携して取り組んでいます。また、サステナビリティに関する方針および戦略の策定やESG中期目標の進捗管理も同課が行っており、関連部署と連携して取り組みを推進しています。ESG中期目標の進捗および、サステナビリティに関する重要事項について、担当役員より経営会議および取締役会に報告しています。

情報開示についても同課が担当しており、GRI(Global Reporting Initiative)やSASB(米国サステナビリティ会計基準審議会)を参考にしながら、ステークホルダーの皆様との対話に資するよう開示内容の拡充に努めています。



活動の指針

活動の指針として、サステナビリティ方針を策定しています。

2018年4月18日 制定

私たちは、企業理念の実践を通じて企業価値の向上を目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

私たちは、人々が心身ともに健康であり続けられる社会の実現に向けて積極的に取り組み、企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

2. 安全・安心を徹底します。

私たちは、製品・サービスの安全・安心を徹底し、その上で「おいしさ」、「たのしさ」、「やすらぎ」を提供することで、社会の豊かさの向上に貢献します。

3. 環境負荷の低減に貢献します。

私たちは、自然の恩恵を受けて成長し、地球の一員として成り立っていることをよく理解し、企業活動を通じて低炭素社会や循環型社会の実現に貢献します。

4. 従業員が能力を最大限に発揮できる職場環境を目指します。

私たちは、従業員一人ひとりの多様な個性や働き方を尊重し、ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組み、個々の能力を最大限に発揮できる環境を目指します。

5. バリューチェーン全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。

私たちは、持続可能な社会の実現のために、ステークホルダーの皆様と協力し、バリューチェーン全体で取り組みます。

6. 対話を通じて社会からの信頼を確立します。

私たちは、あらゆる法令、規程を遵守し、人権を尊重するとともに、高い倫理観に則った誠実かつ公正な企業活動を遂行します。

私たちは、ステークホルダーの皆様との健全かつ正常な関係を構築するとともに、公正な競争、企業情報の適切な開示等、社会の一員としての責任を果たします。

サステナビリティ活動は社外の声に傾聴しながら進めています。定期的に社外有識者とのダイアログを行い(P24参照)、いただいたご意見を活動に反映しています。また、社会的責任に関する国際ガイドンス規格であるISO26000を活用するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ取り組みを行っています。

有識者を交えた勉強会の実施

(株)ロッテ ESG 推進部サステナビリティ推進課が主催し、マテリアリティに沿ったテーマで、社外の有識者を交えた社内勉強会を開催しています。過去の勉強会の内容は社内のイントラネットに掲示し、参加できなかった従業員とも内容を共有しています。また、2020年度はオンライン動画配信型に変更し、より多くの従業員が視聴できるようになりました。

勉強会実績

2018年度	食品ロス (関連するマテリアリティ: 環境)
	ダイバーシティ (関連するマテリアリティ: 従業員の能力発揮)
2019年度	食品表示 (関連するマテリアリティ: 食の安全・安心)
	オーラルフレイル*1 (関連するマテリアリティ: 食と健康)
2020年度	パーム油 (関連するマテリアリティ: 持続可能な調達)
	フードセーフティ (関連するマテリアリティ: 食の安全・安心)
	イクボス*2 (関連するマテリアリティ: 従業員の能力発揮)
	食育 (関連するマテリアリティ: 食と健康)

*1 オーラルフレイル: 噛む、飲み込む、話すなどの口腔機能が衰えることを指し、フレイル(身体の衰え)の一種。

*2 イクボス: 子育てに積極的に関わる男性をイクメンと呼ぶのにならぬ、部下の育児や介護などライフ・ワーク・バランスの両立を支援する上司。

従業員への浸透施策

サステナビリティの活動を推進するためには、その担い手である従業員が考え方を十分に理解する必要があります。そこで、様々なアプローチで浸透活動を行っています。(株)ロッテ WEB 社内報では、マテリアリティや ESG 中期目標について解説する記事を掲載するとともに、サステナビリティに関するトピックをタイムリーに情報発信しています。さらに、人事部門が主催する各種研修の中で、サステナビリティに関する内容を組み込んでいます。2020年度は新任管理職および新任基幹職向けの研修の中でサステナビリティについて説明しました。

MESSAGE



佐藤 誠

株式会社ロッテ
ESG 推進部長

サステナビリティ活動の推進に向けて

新型コロナウイルス感染拡大は、世界を大きく変えました。感染防止の観点から家で過ごす時間が増え、離れた家族や親しい友人と集まる機会は確実に減り、日々の生活に様々な制約が課せられました。生活様式や価値観の変化は、地球規模での「持続可能性」について改めて考える機会になりました。また、SDGs(持続可能な開発目標)が取り上げられる機会が格段に増え、その関心の高まりを感じました。

2020年は持続可能な社会に向けて、日本国内でも大きな動きのあった年でもありました。日本政府は、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル宣言」を行い、脱炭素社会の実現を目指すことを明確にしました。また、企業に対して人権デューデリジェンス実施の期待を明文化した、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」の国別行動計画が発表されました。

(株)ロッテは持続可能な社会の実現に貢献するため、このような社会の動きに呼应しながらさらに取り組みを進めました。2050年にカーボンニュートラルを目指す目標を新たに掲げました。また、国別行動計画の発表に先駆けて人権デューデリジェンスを実施し、人権リスクを低減する取り組みを進めています。新型コロナウイルス感染拡大防止のために新たな働き方を急ぎ導入したことが功を奏し、ESG 中期目標の働き方改革は大きく前進しました。これらの取り組みについては、本サステナビリティレポートに掲載しています。今後も、ステークホルダーの皆様からのご意見を取り入れながら、持続可能な社会の実現に貢献するための行動を加速していきます。